シンポジウム２

輸血経験者やその家族の声を届ける
―広報活動・献血セミナー参加から―

大谷　茜（神奈川県赤十字血液センター）

【はじめに】

当センターでは「献血が誰かのいのちに繋がっていること」を献血者に実感してほしいという想いで，輸血経験者やその家族の声を献血者に届ける取り組みを実施している。

その中で「献血者に感謝を伝えたい」という想いを持った輸血経験者や家族の協力を得て行っている，さまざまな資材作製や広報活動の事例を紹介する。

【事例紹介】

平成20年度に地元ラジオ局「FMヨコハマ」の協力を得て，輸血経験者の写真入ポスターの作製を実施したことがこの取り組みのきっかけである。

その後も，たとえば平成24年にはプロサッカーチーム「川崎フロンターレ」の協力で，輸血経験者とその家族が選手と一緒に入場するイベントを実施している。このイベントは読売新聞や朝日新聞などから取材を受け，献血が誰かのいのちに繋がっていること，そして，献血の重要性をスタジアムに来場した１万８千人と，県内の新聞購読者250万人に周知できた大変意義のあるイベントとなった。

それ以降も，横浜駅前での街頭広報への協力をはじめ，輸血経験者や家族の顔が見える広報を数多く実施している。

そしてその中で，たとえばこちらのポスター（**図１**）作成時には，１人のご協力者様が同じ病院で知り合った他の輸血経験者の方を紹介してくださるといった，輸血経験者同士の繋がりのありがたさを感じることも数多くありながら，広報活動を行っている。

【募集方法の変更】

しかし近年，その紹介や声掛けだけでは新たにご協力いただける方を集めることが困難になり始めた。

そのため，平成29年から当センターホームページおよびFacebook上で輸血経験者やそのご家族からのメッセージ募集を開始し，輸血経験者の協力をいただいている。

そして，この募集にはポイントが２点挙げられる。

①メッセージをいただく際，できる限り写真も一緒にご提供いただく

輸血経験者の顔が見えることで献血のゆくえをイメージしやすく，より心に響くメッセージを届けることができるため

②メッセージ応募をきっかけに，他の活動や資材作製の協力依頼を行う

ホームページ掲載だけでなく，メール文面やチラシなどさまざまな場面で使用できるようにして

図１　輸血経験者出演ポスター

いくため

同募集開始後の１年間にメッセージをいただいた10名のうち，６名の皆様にはFMヨコハマにご出演いただいたほか，キッズ献血でも３名の皆様にチラシの配布やお子さまの応対を行っていただいた。

【輸血経験者・家族のビデオレター※抜粋】

ここで，輸血経験のある方とそのご家族からのビデオレター内容を抜粋して紹介する。

・小辻由輝仁さん（輸血を40回以上経験，現在は神奈川県学生献血推進連盟に所属）

『自分の輸血経験を多くの方にお伝えし，僕のように輸血を必要としている人が世の中にたくさんいるということを知ってもらいたい。

また，皆さんからいただいた血液は誰かの命にしっかり繋がっているということを，一人でも多くの方々に知っていただきたい。そんな想いで活動をしています。』

・小辻まさみさん（由輝仁さんのお母様）

『息子の手術後，放射線治療や化学療法が行われました。抗がん剤による激しい副作用を目にし，私は胸が張り裂けるような思いで毎日を過ごしていました。自分で血液を作る力もなくなってしまったため，息子の治療において「輸血」は絶対に欠かすことができないものでした。

そして，輸血のおかげで息子の病気は完治し，元気に学校にも通えるようになりました。

そんな中，同じ高校に同じ病気で闘っていたお子さんがいらっしゃり，そして，そのお子さんとお母さまが駅前で必死に献血の呼びかけを行う姿を見て，「輸血を受けたおかげで自分の子供も助かった，この感謝の気持ちを，私も少しでも多くの人に伝えていきたい！」という思いで，活動への参加を決めました。

献血セミナーの講師や，地元テレビ，ラジオ番組への出演，SNSでの情報発信など，どの活動でも，見ず知らずの我が子のために献血をしてくださった顔の見えない方たちへの感謝の想いと，いのちの大切さについて，精一杯お話しをさせていただいています。

何らかの形で献血の推進活動に協力したいと思っていらっしゃるご家族は，決して少なくはないと思います。そのような方達が少しでも多く活動をしていける場所が，これから徐々に増えていってくれますことを私も願っております。』

【向上高校献血セミナー】

こうしたまさみさんの想いを直接献血者に伝えた場として，私立向上高校での献血セミナーがある。

同校における採血人数推移のグラフ（**図２**）では，セミナー実施後は前回比で献血者数が増加し，各回300人を超えるご協力をいただいていることが読み取れる。加えて，平成29年には同じ高校で小

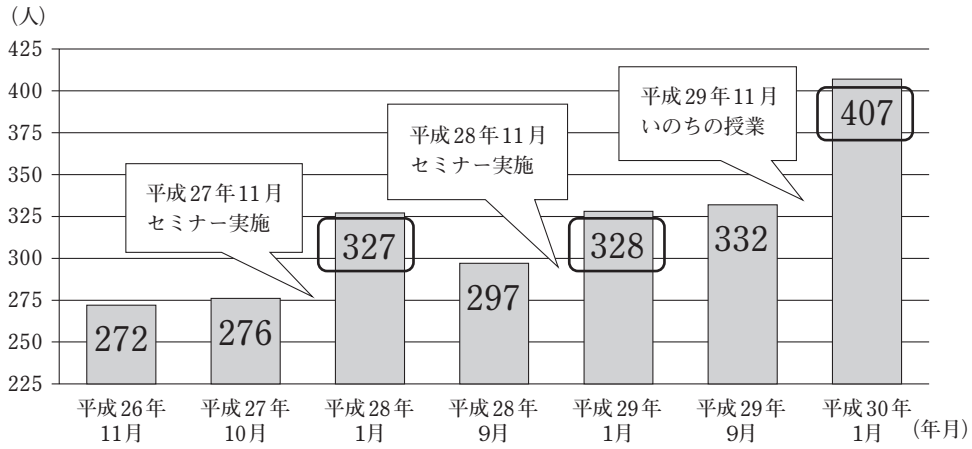

図２　私立向上高校における採血人数推移

林麻耶さんがいのちの授業を行い，過去最高，407名の協力を得ている。

私たちは，輸血経験のある方やご家族による広報には「たくさんの想い」が込められており，「献血者の心に響くチカラ」が非常に強いと感じている。

【まとめ】

「献血が誰かのいのちを支えていること」を献血者に実感してもらうにはまず，当センターが声を募集していることをより広く輸血経験者の皆様に周知する必要がある。

輸血経験者やその家族の声は，献血者にとって何よりも嬉しいものであり，もっともっと届けていく必要があることを輸血経験のある方々に伝えなければならない。

さらには，どの媒体ならご協力いただけるか，輸血経験のある方と相談をしながら多くの場面で声を届けていくこと，そして，輸血経験のある方々に継続的にご協力いただくため，献血者に確実に届く献血ルームやセミナー会場などでも広報を行い，その目に見える成果を輸血経験のある方々に伝えることも必要ではないだろうか。

当センターの取り組みが他のセンターでも広がり，より多くの輸血経験者や家族の想いが献血者に届くことを期待している。